

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月13日
【四半期会計期間】	第58期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社ソノコム
【英訳名】	SONOCOM CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高木 清啓
【本店の所在の場所】	東京都目黒区目黒本町二丁目15番10号
【電話番号】	03 (3716) 4101 （代表）
【事務連絡者氏名】	業務部長 宮寺 利宗
【最寄りの連絡場所】	東京都目黒区目黒本町二丁目15番10号
【電話番号】	03 (3716) 4101 （代表）
【事務連絡者氏名】	業務部長 宮寺 利宗
【縦覧に供する場所】	株式会社ソノコム玉川工場 （神奈川県川崎市高津区下野毛一丁目6番34号） 株式会社ソノコム松戸工場 （千葉県松戸市松飛台277番地） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第57期 第2四半期 累計期間	第58期 第2四半期 累計期間	第57期
会計期間	自2018年 4月1日 至2018年 9月30日	自2019年 4月1日 至2019年 9月30日	自2018年 4月1日 至2019年 3月31日
売上高 (千円)	1,106,135	1,061,114	2,176,895
経常利益 (千円)	193,030	140,743	294,923
四半期(当期)純利益 (千円)	119,513	96,383	197,336
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	925,750	925,750	925,750
発行済株式総数 (千株)	5,000	5,000	5,000
純資産額 (千円)	7,789,805	7,914,475	7,862,557
総資産額 (千円)	8,735,864	8,765,353	8,745,589
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	32.61	26.30	53.84
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	10.00
自己資本比率 (%)	89.2	90.3	89.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	151,378	152,576	175,365
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	195,111	181,075	217,194
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	36,496	36,534	36,587
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	3,564,551	3,507,896	3,565,104

回次	第57期 第2四半期 会計期間	第58期 第2四半期 会計期間
会計期間	自2018年 7月1日 至2018年 9月30日	自2019年 7月1日 至2019年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	17.55	11.95

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業業績の回復や雇用環境の改善が進み、緩やかな回復基調で推移しましたが、消費増税に伴う個人消費への影響等が懸念されます。

一方世界経済は、米中の通商問題の長期化懸念に加え、中国経済の減速懸念等、先行き不透明な状況が続いております。

当社が属するスクリーン印刷用製版業界におきましては、主要顧客である電子部品業界において、スマートフォン向けや自動車関連向けの各種電子部品の生産は伸び悩み、太陽電池関連や有機EL等のディスプレイの生産についても低調に推移しました。

このような状況のもと、当社におきましては、営業・製造・技術が一体となり、高精度製品の安定生産、生産効率の向上に取り組んでまいりましたが、売上高につきましては、製品売上高9億50百万円（前年同期比0.9%減）、商品売上高1億10百万円（前年同期比24.8%減）となり、売上高合計10億61百万円（前年同期比4.1%減）となりました。

利益面におきましては、製品売上高の減少と販管費の増加の影響で、営業利益1億25百万円（前年同期比22.7%減）、経常利益1億40百万円（前年同期比27.1%減）、四半期純利益96百万円（前年同期比19.4%減）となりました。

なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントの区分を単一セグメントに変更したため、セグメント別の記載を省略しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

##### 財政状態

##### (資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は47億11百万円となり、前事業年度末に比べ64百万円増加いたしました。固定資産は40億53百万円となり、前事業年度末に比べ44百万円減少いたしました。

この結果、総資産は87億65百万円となり、前事業年度末に比べ19百万円増加いたしました。

##### (負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は4億49百万円となり、前事業年度末に比べ36百万円減少いたしました。固定負債は4億1百万円となり、前事業年度末に比べ3百万円増加いたしました。

この結果、負債合計は8億50百万円となり、前事業年度末に比べ32百万円減少いたしました。

##### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は79億14百万円となり、前事業年度末に比べ51百万円増加いたしました。

この結果、自己資本比率は90.3%（前事業年度末は89.9%）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べて56百万円減少し、35億7百万円(前年同期 35億64百万円)となりました。

また、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において、営業活動の結果得られた資金は、前年とほぼ同額の1億52百万円となりました。この主なものは、仕入債務の増減額の減少額37百万円があったものの、税引前四半期純利益1億48百万円や、売上債権の減少額87百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において、投資活動の結果使用した資金は、前年同期比7.2%減の1億81百万円となりました。これは主に投資有価証券の取得による支出1億1百万円や、有形固定資産の取得による支出81百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において、財務活動の結果使用した資金は、前年とほぼ同額の36百万円となりました。これは、配当金の支払額36百万円によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における研究開発活動の金額は、46百万円であります。

なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社を取り巻く事業環境は、主要顧客である電子部品業界の動向の影響を大きく受けるとともに、同業他社との受注競争の激化など引き続き厳しい状況が続いております。

電子部品業界におきましては、技術革新のスピードが速く、製品の高精度化が著しいことから、当社は、お客様の要求する高精度な製品をより効率的に生産・販売が出来るように取り組んでまいります。

また、当社といたしましてはこれらの状況を踏まえ、高精度製品の製造に使用される製品の開発に注力するとともに、これまでに導入した設備の稼働率を高め、お客様のニーズに合った高精度な製品の安定供給を行ってまいります。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,936,000
計	12,936,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,000,000	5,000,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	5,000,000	5,000,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	5,000	-	925,750	-	1,405,550

( 5 ) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
岨野 俊雄	東京都世田谷区	747	20.41
有限会社ケイエスシー	東京都世田谷区代沢 2 - 1 - 8	538	14.69
岨野 公一	東京都世田谷区	474	12.96
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町 2 - 2 - 1	124	3.38
ソノコム社員持株会	東京都目黒区目黒本町 2 - 15 - 10	113	3.10
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (常任代理人 株式会社三菱 UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内 2 - 7 - 1)	79	2.17
日本トラスティ・サービス信託銀 行株式会社	東京都中央区晴海 1 - 8 - 11	76	2.09
日本生命保険相互会社(常任代理 人 日本マスタートラスト信託銀行 株式会社)	東京都千代田区丸の内 1 - 6 - 6 (東京都港区浜松町 2 - 11 - 3)	66	1.80
段 貴久子	東京都世田谷区	59	1.62
INTERACTIVE BROKERS LLC (常任 代理人 インタラクティブ・ブロー カーズ証券株式会社)	ONE PICKWICK PLAZA GREENWICH, CONNECTICUT 06830 USA (東京都中央区日 本橋茅場町 3 - 2 - 10)	52	1.43
計	-	2,333	63.67

(注) 上記のほか、自己株式が1,335千株(発行済株式総数の26.70%)あります。

(6) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,335,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,663,200	36,632	-
単元未満株式	普通株式 1,800	-	-
発行済株式総数	5,000,000	-	-
総株主の議決権	-	36,632	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権の数10個)含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ソノコム	東京都目黒区目黒本町二丁目15番10号	1,335,000	-	1,335,000	26.7
計	-	1,335,000	-	1,335,000	26.7

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,621,154	3,552,351
受取手形及び売掛金	692,722	605,380
有価証券	198,635	384,500
商品及び製品	3,533	3,392
仕掛品	51,837	47,292
原材料及び貯蔵品	63,839	73,497
その他	15,709	45,438
流動資産合計	4,647,432	4,711,854
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	586,241	578,567
機械及び装置(純額)	90,905	179,209
土地	1,390,510	1,390,510
その他(純額)	38,874	40,382
建設仮勘定	36,500	-
有形固定資産合計	2,143,031	2,188,670
無形固定資産	19,290	24,149
投資その他の資産		
投資有価証券	1,566,782	1,464,654
その他	369,052	376,025
投資その他の資産合計	1,935,835	1,840,680
固定資産合計	4,098,157	4,053,499
資産合計	8,745,589	8,765,353
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	220,599	182,817
未払法人税等	44,999	60,570
引当金	56,494	48,852
その他	163,480	157,180
流動負債合計	485,572	449,420
固定負債		
退職給付引当金	3,827	6,175
役員退職慰労引当金	393,632	395,282
固定負債合計	397,460	401,458
負債合計	883,032	850,878
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	925,750	925,750
資本剰余金	1,405,550	1,405,550
利益剰余金	6,305,651	6,365,385
自己株式	825,151	825,151
株主資本合計	7,811,799	7,871,533
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	50,757	42,941
評価・換算差額等合計	50,757	42,941
純資産合計	7,862,557	7,914,475
負債純資産合計	8,745,589	8,765,353

(2)【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	1,106,135	1,061,114
売上原価	717,711	690,517
売上総利益	388,423	370,597
販売費及び一般管理費	225,465	244,611
営業利益	162,958	125,985
営業外収益		
受取利息	16,490	17,376
為替差益	12,016	-
その他	1,965	2,323
営業外収益合計	30,472	19,699
営業外費用		
為替差損	-	4,776
その他	401	165
営業外費用合計	401	4,941
経常利益	193,030	140,743
特別利益		
受取弁済金	2,883	7,450
特別利益合計	2,883	7,450
税引前四半期純利益	195,913	148,193
法人税、住民税及び事業税	64,964	49,842
法人税等調整額	11,435	1,966
法人税等合計	76,400	51,809
四半期純利益	119,513	96,383

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	195,913	148,193
減価償却費	41,859	51,046
賞与引当金の増減額(は減少)	1,215	4,358
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5,600	1,650
退職給付引当金の増減額(は減少)	11,782	2,347
役員賞与引当金の増減額(は減少)	14,000	12,000
受取利息及び受取配当金	17,303	18,240
為替差損益(は益)	12,016	4,776
受取弁済金	2,883	7,450
売上債権の増減額(は増加)	66,004	87,341
たな卸資産の増減額(は増加)	1,269	4,972
仕入債務の増減額(は減少)	5,905	37,782
その他	33,412	47,939
小計	212,019	161,776
利息及び配当金の受取額	17,041	18,894
弁済金の受取額	2,883	7,450
法人税等の支払額	80,565	35,544
営業活動によるキャッシュ・フロー	151,378	152,576
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	-	107,790
定期預金の払戻による収入	-	107,790
有形固定資産の取得による支出	87,653	81,242
無形固定資産の取得による支出	7,820	7,807
投資有価証券の取得による支出	209,735	101,168
投資有価証券の売却による収入	14,814	14,005
投資有価証券の償還による収入	100,000	-
その他	4,716	4,863
投資活動によるキャッシュ・フロー	195,111	181,075
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	36,496	36,534
財務活動によるキャッシュ・フロー	36,496	36,534
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,726	7,826
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	75,502	57,207
現金及び現金同等物の期首残高	3,640,053	3,565,104
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,564,551	3,507,896

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
給与手当	46,343千円	47,146千円
賞与引当金繰入額	12,044千円	12,491千円
退職給付費用	192千円	6,916千円
役員退職慰労引当金繰入額	5,600千円	5,835千円
試験研究費	41,234千円	46,950千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	3,519,906千円	3,552,351千円
預金期間が3ヶ月を越える定期預金	- 千円	107,960千円
有価証券勘定に含まれる現金同等物	44,644千円	63,504千円
現金及び現金同等物	3,564,551千円	3,507,896千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自2018年4月1日 至2018年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	36,649	10	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	36,649	10	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

(金融商品関係)

金融商品に関する四半期貸借対照表の科目ごとの四半期貸借対照表計上額その他の金額は、前事業年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期貸借対照表計上額その他の金額は、前事業年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自2018年4月1日 至2018年9月30日)

「 当第2四半期累計期間(報告セグメントの変更等に関する事項) 」に記載のとおりであります。

当第2四半期累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

当社は単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

当社は、セグメント情報における報告セグメントを従来「スクリーンマスク」「フォトマスク」「その他」を報告セグメントとしておりましたが、第1四半期累計期間より単一セグメントに変更しております。

これは、フォトマスクの売上の減少等により、当社の事業展開、経営管理体制の実態等の観点から再考した結果、当社が製造販売する製品がスクリーン印刷用のマスクであり、当社の事業を一体として捉えることが合理的であり、単一セグメントが適切であると判断したためであります。

この変更により、当社は単一セグメントになることから、前第2四半期累計期間及び当第2四半期累計期間のセグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	32円61銭	26円30銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	119,513	96,383
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	119,513	96,383
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,664	3,664

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月12日

株式会社ソノコム

取締役会 御中

### 仰星監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 岡本 悟 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 宮島 章 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ソノコムの2019年4月1日から2020年3月31日までの第58期事業年度の第2四半期会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ソノコムの2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。